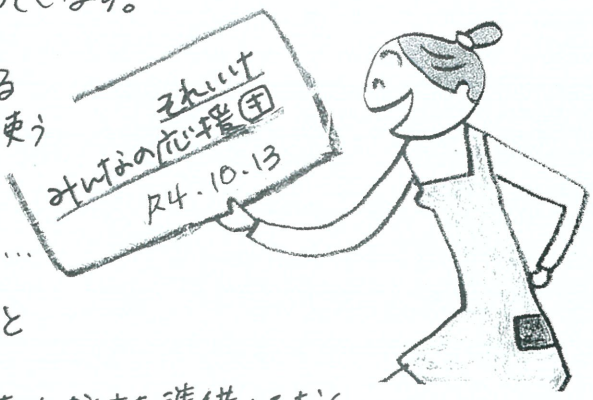
教育の世界では、新しい能力観に注目が集まっています。

1. 自律的に行動する
2. 異質な立場の人と協同的にかかわる
3. 言葉や技術などを状況に応じて使う

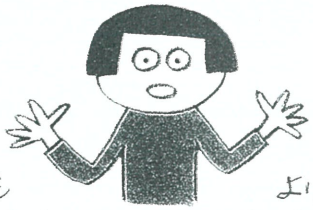


「自分で考え、選択し、行動する」

そんな子どもたちの「自律」する力を引きだすためには…

時間的環境…ゆったりとした時間が流れていること
人的環境…まずは信頼し見守ること
物的環境…自発的に動きやすいように、ちょっとしたしかけを準備しておく

小学校以降で求められる能力は、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に行動する能力で、これらが学力として評価される時代になっています。
つまり、幼児期に育むべき能力は、先生に言われるとおりに行動する力ではなく、自分で状況を捉え、行動する能力なのです。



語彙と学力、生きる力

遊び中心の自由保育の子どもが、一斉保育の子どもよりも語彙得点が高く、知能も発達していることが研究で明らかにされています。子ども同士、保育者と子どもなどの会話の質と量が多く、絵本や描画などの文化に触れる機会が多いからでしょうか。
言葉は、他者とのコミュニケーションの大切な手段です。言葉によって、子どもは行動力の調整力や自己抑制力を身につけます。また、言葉により知識を習得し、理解力と思考力を発達させます。言葉は豊かな感受性をも育みます。絵本やわらべうたなど、日本は言葉に関する文化が豊富です。後は活用するだけです。

安定した身体と情緒をもつことが発達の基礎

小学校で椅子に座り集中して勉強してほしいと願いますが、そのためには乳幼児期に安定した腰と体幹となめらかに動く手指を獲得する必要があります。乳幼児期に抱きしめられ、あやされ、他者との信頼関係を形成し、安定した身体と、注意を向ける力を獲得していれば、その後のさまざまな学習は容易です。子どもがやりたいと強く願い（自分で目標を決め）取り組み（あきらめずに挑戦）続ける時間がたっぷりあれば、強制しないのに達成してしまいます。

「文字を書く」力の土台が育っていれば、わずかな期間で習得できる

文字を認識するためには…その前に線や図形を識別し、位置や長さを見分ける力が必要です。

文字を書くためには…手指の巧緻性と、目と手の協応が必要です。これらは0歳からの指先を使った遊びの中で育まれていくものです。腰→粗大な運動→微細な運動と発達を追って、肩や腕や肘、手首、手指がなめらかに動くように全身運動を取り入れます。

※5歳は発達上左右を逆にした鏡文字を書く子どもが多くいます。
ひらがなは、斜めの線が多いため、正確な模倣は6歳以降です。

なぬすが ほっと つうしん

大人も子どもも、かけがえのない"ひとりの人"として認めたり認められるといいですね。みんな成長!!